

藤子・F・不二雄大全集 ドラえもん 5 巻

奥村 紘美（利用者支援課）



早稲田大学中央図書館の選書方針ではマンガは収集対象となっておりません。しかし、戸山キャンパスにある戸山図書館は、マンガを研究対象とする教員・学生がいることからマンガも所蔵しています。藤子・F・不二雄大全集もそのひとつです。

藤子・F・不二雄大全集は2009年から2014年にかけて小学館から出版された、漫画家藤子・F・不二雄の全集です。全114巻の他に、追加で刊行された名犬ラッシーと別巻が4冊あります。戸山図書館ではこの119冊に加え、購入者特典である非売品のFノート、Fヴォイス、Fアート、Fピースの4冊を所蔵しています。

119冊のうち20冊を占めるのが代表作の『ドラえもん』です。『ドラえもん』は小学館の学年誌『よいこ』『幼稚園』『小学一年生』『小学二年生』『小学三年生』『小学四年生』で1970年1月号から同時に連載がスタートし、1973年4月号からは『小学五年生』『小学六年生』でも連載が始まりました。その後、1975年9月号～1986年7月号の10年間は小学生向けの6誌の学年誌全てに連載されていました。

藤子・F・不二雄大全集の『ドラえもん』はそのような連載形態を踏まえて、学年繰上がり収録という方法を採用しています。例えば『ドラえもん5巻』には1965年度生まれの子どもたちが読んだ作品が年代順に収録されています。彼らが初めてドラえもんに出会ったのは、1972年の『小学一年生』4月号。「花さくはい」という花咲かじいさんの灰をモチーフとした2ページ5コマのお話でした。のび太は、今の私たちが想像するのび太より幼く、身長もドラえもんより低く描かれています。

学年が上がってくると、科学の原理や、社会の仕組みについての描写も見られます。『小学四年生』1975年8月号の「無

人島の作り方」では、家賃の値上がりが原因でおこづかいを減らされてしまったことから、家賃を払わなくて済むよう、海底のマグマを噴火させ海の上に土地を作ろうとします。

高学年になると、大人を一人の人間として捉える視点も垣間見えます。『小学六年生』1977年9月号の「パパもあまえんぼ」では、ある日泥酔したパパが、この家で一番偉いんだぞ、とママやのび太の忠告も聞き入れず廊下で眠りこんでしまいます。今は亡きおばあちゃんにパパを叱ってもらうため、のび太とドラえもんはパパを過去の世界へ連れていきます。目を覚ましたパパは、おばあちゃんの姿を見るなり泣き出し、職場での悩みを打ち明けます。そんなパパを見たドラえもんは「おとなってかわいそうだね。」「自分より大きなものがないもの。よりかかってあまえたり、しかってくれる人がいないんだもの。」と言います。辛い気持ちをおばあちゃんに受け止めてもらえたパパは、翌日穏やかな表情で食卓についています。

「あの日あの時あのダルマ」では、ドラえもんの助けがなくとも自ら前に進もうとするのび太が描かれます。幼いころを懐かしんでばかりいるのび太に、前を向くようドラえもんは言いますが、今までの失敗ばかりの経験から「どうせろくな未来じゃないさ。」とのび太は言い放ちます。ドラえもんは呆れてその場を去ってしまいますが、おばあちゃんとの思い出のダルマを見つけたのび太は「ぼく、ひとりでおきるよ。これからも、何度も何度も転ぶだろうけど……。かならずおきるから安心してね、おばあちゃん。」と思いなおし、勉強を始める場面で話は終わります。この話は『小学六年生』1978年3月号に掲載された作品で、これを当時読んだ読者にとっては、小学一年生のときから慣れ親しんだドラえもんの最後の話となるわけです。小学校に入学したての子どもたちと、中学校入学を控え悩みながら大人になっていく子どもたちに向けて描かれた話との違いがよくわかるでしょう。学年ごとに書き分けられたドラえもんを通して、当時の子どもたちの成長を追体験できるようになっています。

【参考】

“選書基準について（参考）”. 中央図書館.

https://www.waseda.jp/library/libraries/central/#anc_32, (参照 2022-07-29)

“資料の選定・購入希望”. 戸山図書館利用案内.

https://www.waseda.jp/library/libraries/toyama/libguide/#anc_8, (参照 2022-07-29)

“藤子・F・不二雄大全集”. 小学館.

<https://www.shogakukan.co.jp/pr/fzenshu/>, (参照 2022-07-29)